

法人（事業所）理念	えがおで咲かせる、ひとりひとりの「できるよろこび」				
支援方針	【個別と小集団のバランス良い療育】を提供します。 個別療育プログラム・お子さまの個性や保護者さまのニーズをすり合わせ、オーダーメイドの個別プログラムを作成します。お子さまのやりたい心を大切にして「できた！うれしい！」を積み重ね、言語でのコミュニケーションにつなげます。 集団療育プログラム・・小集団の中で社会性やより良いコミュニケーションスキルを身につけられるようにします。日常生活動作の獲得や生活リズムの形成、五感を使った自然な体験と振り返りによる強化を大切にします。				
営業時間	9時	30分から	17時	0分まで	送迎実施の有無 <input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし
	ねらい	支援内容			具体的な活動や支援内容
本人支援	健康・生活	(a) 健康状態の維持・改善 (b) 生活のリズムや生活習慣の形成 (c) 基本的生活スキルの獲得	(a) 健康状態の把握 健康な心と体を育て自ら健康で安全な生活を作り出すことを支援する。また、健康状態の常なるチェックと必要な対応を行なう。その際、意思表示が困難であるお子さまの障害の特性及び発達の過程・特性等に配慮し、小さなサインから心身の異常に気付くよう、きめ細かな観察を行う。 (b) 健康の維持 健康的な食事、摂取等の基本的な生活のリズムをもつていただけるよう支援する。また、健康な生活の基本となる食を富む力の育成や、労働などとも関わらず、楽しく食事ができるよう、口腔機能・感覚等に配慮しながら、咀嚼・嚥下・姿勢保持・自助具等に関する支援を行なう。 (c) リハビリテーションの実施 日常生活や社会生活を営めるよう、それぞれのお子さまに適した身体的、精神的、社会的訓練を行う。 (d) 基本的生活スキルの獲得 身の回りを清潔にし、食事・衣類の着脱・排泄等の生活に必要な基本的技能を獲得できるよう支援する。 (e) 構造化等により生活環境を整える 生活の中でも、さまざまな遊びを通して学習できるよう環境を整える。また、障害の特性に配慮し、時間や空間を本人に分かりやすく構成化する。	来所時に体温測定を行い、健康状態を確認します。 始まりの会では、時間の管理を目的とした日にちに曜日、天気の確認、ビジョントレーニングや言語の明瞭化を目的とした口の体操を行い、見通しを持って活動できるように一日の予定を確認します。 一日を通して、日常生活に必要なスキル（食事、排泄、着替えなど）の習得を支援し、教室の日課に慣れる、生活リズムを整えます。（作業療法士が、姿勢や動作の改善に関するアドバイスを行います。）	
	運動・感覚	(a) 姿勢と運動・動作の向上 (b) 姿勢と運動・動作の補助手段の活用 (c) 保有する感覚の総合的な活用	(a) 姿勢と運動・動作の基本的な能力の向上 日常生活における動作の基本となる姿勢保持や上肢・下肢の運動・動作の改善及び習得、関節の拘縮や変形の予防、筋力の維持・強化を行なう。 (b) 姿勢保持と運動・動作の補助手段の活用 姿勢の保持や各種の運動・動作が困難な場合、姿勢保持装置など、様々な補助用具等の補助的手段を活用してこれらができるよう支援する。 (c) 身体の運動能力の向上 自力での身体の移動や歩行、歩行器や車いすによる移動など、日常生活に必要な移動能力の向上のための支援を行う。 (d) 保有する感覚の活用 保有する感覚の特徴や感覚装置の感覚等を十分に活用できるよう、遊び等を通して支援する。 (e) 感覚の操作及び手筋の活用 保有する感覚器官を用いて状況を把握しやすくなるよう眼鏡や補聴器等の各種の補助機器を活用できるよう支援する。 (f) 感覚の特性（感覚の過敏や鈍感）への対応 感覚や認知の特性（感覚の過敏や鈍感）を踏まえ、感覚の偏りに対する環境調整等の支援を行う。	体操などを通して、日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や上肢・下肢の運動能力の向上を目指します。サークットやバランスボールなどを用いて、体幹を意識した運動遊びを通して筋力、持久力、柔軟性などの運動能力を高めます。ゆっくりとした動きなど緩急をつけることで、注意して取り組んだり、集中力の維持を意識して、楽しく取り組めるよう支援を行います。 音楽療育担当の職員の弾くピアノの音に合わせて、リズムに合わせて体を動かしたり、音を聞き分けたりする活動を通して、聞くことや聴いて理解する力と体のコントロールができるよう促します。	
	認知・行動	(a) 認知の発達と行動の習得 (b) 空間・時間・数等の概念形成の習得 (c) 対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得	(a) 感覚や認知の活用 視覚、聴覚、触覚等の感覚を十分活用して、必要な情報を収集して認知機能の発達を促す支援を行う。 (b) からだへ行動への認知過程の発達 環境から情報を取得し、そこから必要なメッセージを選択し、行動につなげるという一連の認知過程の発達を支援する。 (c) 認知と行動の手順かりとなく概念の形成 認知の特性を踏まえ、自分で入ってくる情報を適切に処理できるよう支援し、認知の偏り等の個々の特性に配慮する。また、ごはいりや偏食等に対する支援を行う。 (d) 行動基準への予測及び対応 感覚や認知の偏り、コミュニケーションの困難性から生ずる行動障害の予防、及び適切行動への対応の支援を行う。	季節の行事を通して料理をしてお友達と楽しく食べる経験、地域のお店にお友達と一緒に買い物に行くことで、お金の使い方や計算、時間の管理などを学びます。 小集団や個別療育にて、ボールプールや新聞遊び、小麦粉粘土遊びや指先を使う知育玩具などで感覚を養い、興味の幅を広げます。	
	言語 コミュニケーション	(a) 言語の形成と活用 (b) 言語の受容及び表出 (c) コミュニケーションの基礎的能力の向上 (d) コミュニケーション手段の選択と活用	(a) 言語の形成と活用 具体的な事物や経験や言葉の意味を結びつける等により、体系的な言語の習得、自発的な発声を促す支援を行う。 (b) 受容言語と表出言語の支援 話し言葉や各種の文字・記号等を用いて、相手の意図を理解したり、自分の考えを伝えたりするなど、言語を受容し、表出す支援を行なう。 (c) 人と人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得 認知の特性を踏まえ、自分で入ってくる情報を適切に処理できるよう支援し、認知の偏り等の個々の特性に配慮する。また、ごはいりや偏食等に対する支援を行う。 (d) コミュニケーション機能の活用 各種の文字・記号、絵カード、機器等のコミュニケーション手段を適切に選択、活用し、環境の理解と意思の伝達が円滑にできるよう支援する。	言語で相手に伝伝え、言語でコミュニケーションの心地よさ、受け入れてもらえる安心感を感じられるようになります。 呼吸のコントロールすることで発声を促し、口の体操や口腔内を動かす体験を通して発音の明瞭化に取り組みます。個別療育にて、自分の気持ちシートなどで自分の気持ちを表現したり、指導員が聞き取り、文章化する経験を積み重ねていくことで、文章で相手に伝えられるようになります。	
	人間関係 社会性	(a) 他者との関わり（人間関係）の形成 (b) 自己の理解と行動の調整 (c) 仲間づくりと集団への参加	(a) アクティビティ（要着行動）の形成 人の関係性を意識し、身近な人と親密な関係を築き、その信頼関係を基盤として、周囲の人と安定した関係を形成するための支援を行なう。 (b) 横断行動の支援 遊び等を通して人の動きを模倣することにより、社会性や対人関係の芽生えを支援する。 (c) 感覚運動遊びから象徴遊びへの支援 感覚機能を使った遊びや運動機能を働かせる遊びから、見立て遊びやつもり遊び等の象徴遊びを通して、徐々に社会性の発達を支援する。 (d) 一人遊びから協同遊びへの支援 周囲に子どもがいても協同である一人遊びの状態から並行遊びを行い、大人が介入して行う連合的な遊び、役割分担したりルールを守って遊び協同遊びを通して、徐々に社会性の発達を支援する。 (e) 自己の理解とコントロールのための支援 大人を介在して自分のできること、できないことなど、自分の行動の特徴を理解するとともに、気持ちや情動の調整ができるよう支援する。 (f) 集団への参加への支援 集団に参加するための手順やルールを理解し、遊びや集団活動に参加できるよう支援する。	小集団の活動の中で、グループでの協力やコミュニケーションを促す活動を通じて、他者との関わりや協力的重要性を学び、社会的スキルを育てます。 好きな遊びを繰り返し経験することで、他者と関わる楽しさ、繰り返し遊びたい希望を相手に伝えて受け入れてもらう経験をすることで、人のとの信頼関係を構築します。	
家族支援	・個別療育や集団療育にて行った活動の内容を送迎時(お迎え時)や、写真付きでサービス提供記録にてお伝えします。 ・6ヶ月に1回程度、モニタリングとは別で面談の機会を設け、保護者に共有しています。 ・個別療育の観察の機会を作り、保護者に対して支援のポイントや関わり方のフィードバックを行います。	移行支援	・必要に応じて学校(園)に訪問し、児童との関わり方について情報共有、支援方針を計画します。 ・事業所での様子を他の事業所や相談支援に対し、訪問、電話等で伝え、日々の様子の情報交換を行います。 ・学校(保育園・幼稚園)への送迎時、先生と学校(園)での過ごし方の情報共有を行います。		
地域支援・地域連携	・関係機関で役割分担し、情報を共有を行います。 ・連携会議を定期的に開催し、情報収集・役割分担に関して協議します。 ・各関係機関の情報に基づき、具体的な場面での関わり方や、困りごとにに関しての提案やポイントを共有します。 ・セルフプランの方には利用計画のコーディネートの中核を担う事業所の開催する会議に参画し、情報共有を行います。	職員の質の向上	プロッサムグループ本部にて下記研修実施 ・スタッフ研修 ・専門職員によるスキルアップ研修 ・虐待防止研修 ・身体拘束適正化研修 ・感染症対策研修 その他 児発育ミーティングにて他教室との情報・意見交換実施		
主な行事等	・季節の行事 ・近隣施設や公園への外出活動				